

平成30 (2018) 年度フードバンクくるめ事業計画書

2018.5.19

<概要>

発足2年目の今年度は、初年度より多種多量の食品の提供を受け、増加する支援先団体と貧困世帯に配布する。そのため、資金面を含めた支援体制の強化拡大、より多くの食品取扱いとボランティアを獲得し、活動の輪を更に広げる。

<分野別事業計画>

| カテゴリー | 具体的活動等 | 必要な人数・資金等 |
|--------------------------|--|--|
| 会員・募金 | 正会員50名・賛助会員50口・団体会員獲得をめざす。 野菜専用冷蔵庫を購入募金をする。 | 新たに学生正会員（年会費1,000円）を設ける。 |
| 食品寄贈企業・団体・個人 | 食品関連企業・団体への戸別訪問強化 フードバンク間連携強化、フードドライブ導入 | |
| 助成金・補助金 | 久留米市社会福祉協議会(社協)助成金 久留米市キラリ輝く市民活動助成金 | 社協はーとふる助成金20万円決定済み キラリ補助金の今年度申請60万円予定 |
| 個別生活困窮世帯への支援 | 校区の児童委員・民生委員を通じての支援の拡大 特にシンママ家庭への支援を重視する。 | (仮)シンママくるめ応援団の組織化へ支援 |
| 定期活動日を週3日へ | 週末の土曜もしくは日曜日午後に城島倉庫&事務所を開け、支援先団体への便宜を図る。平日の仕事を持つボランティアも参加しやすくなる。 | 週末参加のボランティア |
| 冷凍・冷蔵食品の取扱い拡大 | 野菜専用冷蔵庫と関連する保冷箱・保冷剤を購入し、新鮮な野菜の取扱いを増やす。 | 新たに野菜専用冷蔵庫(20万円)の購入 関連機材購入 (はーとふる助成金で対応) |
| 農業体験 | みのう農民組合との連携で、子ども食堂参加者やシンママ世帯に収穫（柿・梨など）体験を提供 | 事前連絡で社協のマイクロバスの確保 当日支援スタッフの確保 |
| 玄米・精米の確保 | 保存性の高い玄米を1トン以上確保する。 | |
| 情報発信と共有 | ホームページの拡充 メーリングリストと支援者間でのFaceBookの活用 | |
| 食品の安全管理 | 防犯カメラの継続運用 賞味期限の徹底、トレーサビリティの確保 倉庫の清掃と維持、冷蔵庫の温度管理の徹底 | |
| 施設環境の改善 | 事務所にエアコン導入 トイレの新設は次年度以降に | 200V動力線用エアコン25万円程度 下水道負担金+トイレ新設（約100万円） |
| ボランティアの確保とボランティア団体との連携強化 | シニアはもちろん、特に学生・若い世代・女性のボランティアの参加を募る。ボラ連(久留米市ボランティア連絡協議会)を通じての連携強化 | 4月7日 浦川がボラ連理事(書記)に選出された。 |
| NPO法人化 | 今年度は断念し、不動産取得(県)税免除の条例化への働きかけ、固定資産(市)税減免への働きかけ | 県議会、市議会への働きかけ |
| 災害協定 | 大きな倉庫を活用し、市と災害食備蓄・災害協定を結ぶ。期限切れに近い災害食の提供依頼と美味しい災害食選定の申し出を引き続き行う。 | 1月12日に災害協定締結の提案を提出済み。備蓄量(現在4万食)が増えれば、検討するとの回答あり。 |
| フードバンク大牟田との連携 | 今年7～8月に設立予定のフードバンク大牟田を支援し、協力体制を構築する。 | |
| 佐賀県内団体との連携 | 佐賀市生活自立支援センターを経由して、佐賀市内団体と共働として食品支援を進め、(仮)フードバンクさかの設立への支援を行う。 | |

